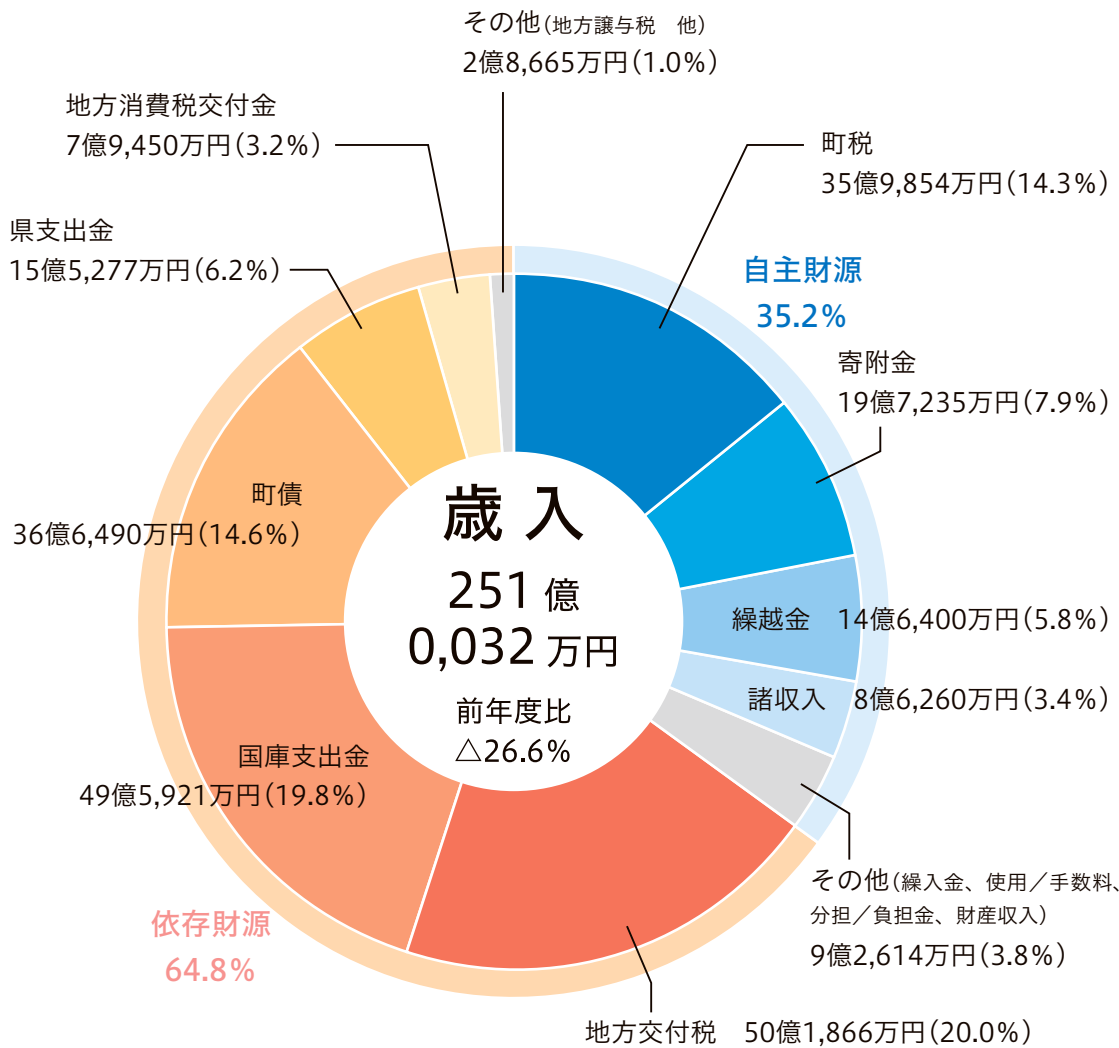


歳入総額251億0,032万円に対し、歳出総額は238億8,950万円で、令和4年度に繰り越す財源2億7,862万円を差し引いた額(実質収支)は、9億3,221万円の黒字となりました。

1. 一般会計

令和3年度 決算状況



主な財政指数		
会計区分	令和3年度	令和2年度
財政力指数	0.53	0.56
経常収支比率	86.6%	94.9%
実質公債費比率	8.8%	8.8%
将来負担比率	38.1%	32.9%
財政調整用基金積立金	38億5,480万円	35億0,821万円
地方債残高	459億3,806万円	440億7,497万円

財政力指数…1に近い、または1を超えるほど、財源に余裕があることを示しています。

経常収支比率…低いほど新規行政需要に弾力的に対応でき、高いと対応の余地が少ないことを示します。

実質公債費比率…18%を超えると地方債の発行に国や県の許可が必要となり、25%以上になった場合、一定の地方債につき起債が制限されます。

将来負担比率…350%を超えると、財政健全化計画を定める必要があります。

財政調整用基金…町の貯金のようなもの。

地方債…地方公共団体が財政上必要とする資金を外部から調達することによって負担する債務で、その履行が一般会計年度を超えて行われるもの。

9月の町議会定例会で、令和3年度の益城町一般会計と特別会計の決算が認定されましたので、報告します。
※端数の処理などにより、百分率の合計が100%にならなかったり、内訳と合計金額に差が生じる場合があります。